

A photograph of several business professionals in dark suits walking away from the camera in a bright, modern office hallway. The floor is highly reflective, and the lighting is bright, creating strong shadows. The image is partially obscured by a white, torn-edge paper overlay that contains the text.

TOEIC 900 点の サラリーマンが教える 経営者の視点で ビジネス英語に 取り組むための方法

日本企業はどのようにして国際化の波を
乗り切ることができるでしょうか。

経営者の視点でビジネス英語を捉えてみます。

■ はじめに

このレポートの利用に際しては、以下の条件を遵守してください。

このレポートに含まれる一切の内容に関する著作権は、レポート作成者に帰属し、日本の著作権法や国際条約などで保護されています。

著作権法上、認められた場合を除き、著作権者の許可なく、このレポートの全部又は一部を、複製、転載、販売、その他の二次利用行為を行うことを禁じます。

これに違反する行為を行った場合には、関係法令に基づき、民事、刑事を問わず法的責任を負うことがあります。

レポート作成者は、このレポートの内容の正確性、安全性、有用性等について、一切の保証を与えるものではありません。また、このレポートに含まれる情報及び内容の利用によって、直接・間接的に生じた損害について一切の責任を負わないものとします。

このレポートの使用に当たっては、以上にご同意いただいた上、ご自身の責任のもとご活用いただきますようお願いいたします。

無料コンサルティングのお知らせ

あなたにお訊ねします。

英語でのコミュニケーションは重要ですが、あなたは仕事でどれだけ英語を使ってコミュニケーションができていますか。もちろん、あなたの会社では英語でのコミュニケーションは必要でない仕事環境かもしれませんね。でも、この無料レポートをお読みになられているあなたは、大なり小なり英語でのコミュニケーションに関心をお持ちのはずです。それが仕事でなくても、街中で突然外国人に英語で話しかけられたり、海外旅行先で道を尋ねたり、ホテルのチェックインだったり、買い物をしたりする場合に、英語でコミュニケーションができればどんなに楽だろう、って考えられたことがあるはずですよ。

そんなあなたの悩みを少しでも解消できるよう、あなたのために無料で英語コンサルティングをさせていただきます。まずは以下の問題をやってみてください。

中学生 1 年生レベルの簡単な和文がほとんどですが、最後の文章は工場での作業に関する説明文のひとつです。この和文をそれぞれ英語にしてみてください。英語にできたら、その答を下記の E メールアドレスに送ってください。

原文

1. これは良い本です。
2. あれは本物の花ではない。
3. この少年たちは中学生です。
4. これらの車はとても高い。
5. これで作業者の部品の取り扱いに手を使わないですむ。

尚、ご質問などもご遠慮なく以下の電子メールにお送りください。

aservice760@gmail.com

海外戦略としての英語力

日本の経営者が更なる企業の利益を追及していくには、国内から脱却したサービスを考えていく必要があります。海外戦略としての英語を身につけることも、グローバル化の時代を生き抜くには重要なノウハウであるため、日頃からビジネス英語を学ぶ機会を持っておく部分が大切です。

さらに日本へ関心を示す外国人へターゲットを当てた戦略的なビジネスを早期に実現させるようにするプロジェクトも、企業の知名度や価値を高めるには必要なエッセンスなのです。

オススメしたい点としては、日本を訪れる外国人へ無料のサンプルを配布することや、サービスを肌で感じてもらえるようにするなど挙げられ、とにかく直接アプローチしてみる行動が大事な側面となります。言葉の壁をクリアしていくことができれば、日本の経営者としての存在感をこれまで以上に高める方向にもつながるため、政府と連携して人材を基礎の基礎から育てていくようにする意識を持つ部分も求められるのです。

一方で子供のうちから英語力を鍛えるような内容を提供していくことも、海外戦略を成功させる要因となります。将来性が持てるような国づくりを目指していけば、自然と社会の雰囲気もよい方向へ向かうようになります。スキルが求められるビジネス英語ですが、実際のところは人との信頼関係が大きく左右していきます。

企業のイメージ等を向上していくためにも、日本人らしさをアピールしていく事柄が重要になっていきます。

海外戦略としての経営者の英語力

日本の経営者の方で、海外進出を展望している方であれば、海外戦略としての英語コミュニケーション能力は、必要不可欠となります。

海外拠点の責任者が日本人であったとしても、現地スタッフとのコミュニケーションは英語になるためです。いかなるビジネスにおいても、経営者が自分の考えを社員に伝えるコミュニケーション能力は、もっとも重要なポイントとなります。

経営戦略などの重要な伝達事項は、通訳を使っても可能ではあるのですが、ニュアンスが正確に伝わらないと、ジレンマを抱える日本の経営者も少なくありません。交渉事をスムーズに進めるためには、高いレベルでのビジネス英語力が必要となってきます。

日本では人口が減少傾向にあり、マーケットも減少していくと予想されます。日本の経営者は、アジアやヨーロッパ、アメリカの市場に向かわなければいけない時代へと来ています。そして、英語力が備わっていれば、確実にビジネスチャンスは広がります。

日本の経営者には、旅行会話レベルではなく、正確で実践的な英語力が求められる時代です。日本企業が海外進出をはかる際には、実践的なビジネス英語のスキルが求められるということを認識しておきましょう。海外で勝負がしたい、海外へ打って出たいという経営者の方は、海外での交渉に物怖じしない、英語で啖呵がきれるレベルの英語力を目指しましょう。

多くの経営者は、自分で英語を話すことをあきらめ、通訳を

ついたり、英語が堪能な社員を雇ったりしています。しかし、圧倒的に経営者自らが英語ができるに越した方が、良いということ言うまでもありません。



●日本企業の国際化に必要なスキルは？

晩婚化、非婚化、少子化と言った傾向が明らかになっている日本社会。これらを反映して既に人口減少時代に突入していています。と、同時に高齢化も深刻になっていきます。日本は少子高齢化が最も顕著な国の一つと言えます。

こうした状況から経済界も国内市場の伸びには既に限界を感じています。

そうすると大手企業だけではなく、中小企業や零細企業も含めて、国際市場への参入を余儀なくされると思われれます。そもそも小さな国土に多くの人口を抱えている日本と言う国は貿易立国の道を歩んで成功しました。

ですから、「国際化」というキーワードはずいぶん昔から主張されています。しかし、今後はその「国際化」が単なるお題目ではなく、国際化できるかどうか生き残れるかどうかの分かれ目となります。

これからの時代は否応なしに国際市場に活路を見出すことになるでしょう。

ただその前提となるのが語学力です。国際市場で戦っていく上で基本的なスキルである語学力が圧倒的に不足しているのが現状です。

特に事実上の国際的な公用語である英語力をもっと伸ばす

必要があるでしょう。

日本企業の国際化に必須な英語力向上を企業の経営者自らが実践していく姿勢が重要だと言えます。

海外戦略には語学力向上も視野に入れる

日本の経営者にとって、日々問題となるのはビジネス的な課題です。資金、営業、人材、商品管理、顧客対応…等々、あらゆるビジネス的な課題と向き合っていると思います。ですから、そうした企業が海外戦略を視野に入れた場合も当然、ビジネス的な課題が問題点として上がってきます。

例えば、海外進出を決めたある企業の場合、流通やマーケティングの問題ばかりが社内で議論されていました。

もちろん、これらは重要な問題であることは間違いありません。しかし、海外進出をする場合、最も基本的な問題である語学の問題がなおざりにされているケースが目につきます。

語学というものは一日研修を受けたら翌日からバリバリと使えるようになるというようなものではありません。語学力向上にはある程度の期間が必要になります。

ですから、語学力向上のためには計画的な学習が必要になります。海外進出で利益をあげるのであれば、語学の問題も個人の問題とするのではなく、会社の課題とするべきものです。この点を意識出来ている会社とそうでない会社においては、

会社全体の語学力において大きな差が出ています。
ビジネスにおいて最も重要なコミュニケーションを重視している企業が長期的に見れば利益を上げられるはずです。
つまり、海外戦略には語学力向上も組み入れることが必要だということなのです。

眠っている英語力～潜在意識から顕在意識へ～

今は小学校から英語を学んでいたりしますし、お稽古としての幼児の英語教室なんかも人気があるようです。
日本社会全体として英語熱は高いと言えるでしょう。
では、日本の経済を支えている経営者の方々はどうでしょうか？

現在の日本の経営者の方々も中学、高校と少なくとも英語を6年間勉強してきたと思います。さらに大学などの上位の学校に進学した方はそれ以上に英語を学んできているはずです。
そうした年数の割には多くの方が英語を話せないというのが現状です。

英語が話せる経営者の方の多くは海外留学、海外赴任の経験がある方が圧倒的に多かったです。つまり、必要に迫られて、英語圏で生活をしてきた人が語学を身につけているということです。

では、そうした経験が無い場合は英語力を身につけることはできないのでしょうか？

そんなことはありません。

例えば、ある英単語を見た時に、意味は思い出せなくても、「確か昔、習ったような単語だな～」と覚えていることはあると

思います。

それは、その英単語が潜在意識にはあっても、眠っている状態なのです。これを顕在意識へと引出すことが出来れば英語力が圧倒的に伸びてきます。

つまり、あなたの英語力はゼロなのではなく、潜在意識に眠っている状態だということです。

●入門レベルの英語力でOK！英語で話そうとする姿勢が大事

企業規模の大小を問わず、海外でビジネスを展開する機会が増えてきていると思います。

そうした海外での商談の際に、英語をぺらぺらと話せる日本人経営者を見ていると格好良いなと感じるかもしれません。いかにも世界を股にかけた国際的なビジネスマンと言う感じがしますよね。

ですが、企業の経営者というのは別に英語の教師でもなければ、通訳でもありません。ですから、そんな高度な英語力を持っていないのが当たり前といえます。

むしろぺらぺらと話せる人のほうが例外と言えるでしょう。

大事なのは英語が上手いか下手かということではありません。

それよりも重要なのは日本の経営者自らが英語で話そうとする姿勢なのです。

商談にしろ、ビジネスパートナーとの会話にしろ、通訳に任せているだけではなく、たとえたどたどしい英語で

あったとしても自らコミュニケーションしようと語りかける姿勢は相手にも絶対に伝わります。また、共感も得やすいといえます。

それに英語を話す際には入門レベルの英語力でもかなりの部分、

対応できるものです。

日本の経営者でも年輩になるほど、「英語はちょっと…」と苦手意識を持っている人が多いように感じます。

ですが、大事なのは話そうとする姿勢だと言うことは今一度考えてみてください。

日本の経営者がビジネス英語を学ぶ意義

国際化の時代ですから、日本のビジネスマンが海外で商談したり、逆に海外のビジネスマンが日本で商談したりするのが当たり前のことになっています。日本で行われている商談に海外の経営者が自ら来ることもよくあります。

そうしたときに参加している外国人の経営者がたどたどしい日本語で話していたりすることもあります。

では、それを聞いている日本の経営者はどう思って聞いているのでしょうか？

「変な日本語で話すなよ！」…なんて思っていますか？
違いますよね。

少なくとも常識的な感覚を持っている経営者であれば、一生懸命に話している外国の経営者の言葉を真摯に聞いてあげると思います。たとえ、たどたどしい話し方であったとしても、経営者が相手の言葉で話すのは好感がもたれるものです。

もちろん、契約などの微妙な問題の際にはきちんと通訳をいれるべきですが、そうでない場では極力相手の言葉で話すことが

ビジネスの場では必要になってきます。

こうしたことから、日本の経営者も自らビジネス英語を学ぶべきだと言えます。

「今さら勉強なんて…」というようなネガティブな思考を捨てましょう。

基本的な単語は潜在意識に植え付けられていたりするので、英語の勉強もやり始めてみると案外簡単に感じるかもしれませんよ。

●日本の経営者に必要なビジネス英語のレベル

大企業の場合には留学経験が長い人や帰国子女など英語が使いこなせる人材を自由に雇うことが可能です。

そうした人材を秘書課に配置したりすると、外国人とのコミュニケーションは楽なものです。

経営者自身が英語を話せなくてもまったく困らないと言えるでしょう。

ですが、中小企業となると、そう思い通りに人材を確保できないのが実情ですね。

そうすると経営者自らが英語でコミュニケーションを取らないといけないケースも増えてくるものです。

では、そうした経営者はどの程度のビジネス英語を話せないといけないのでしょうか？

もちろん、レベルが高ければ高いほど良いのですが、そう理想通りにはいかないでしょう。

ただ最初から高いレベルを目指さなくても大丈夫です。

最初は本当に簡単な初級者レベルからが良いのです。

大事なのは英語で相手と話そうという意志です。

先ずはこれが無いと始まりません。

会話しようという意志とそのための学習。

これさえあれば、英語のレベルと言うのは徐々にステップアップしていきます。

英語の勉強を始めた、ある経営者の方が「英語は裏切らない」と言っていました。

これは学習した分だけ、自身の語学スキルとなって身につけていくと言う意味です。

なかなかの名言だと思います。

●英語は一生もののスキルです

ビジネス環境と言うのは目まぐるしく変化するものです。

こうした中ではビジネスに必要とされるスキルも目まぐるしく変化していきます。

だから、せっかく身につけたスキルがあつという間に古くなってしまい使い物にならなくなったりすることもあります。

その典型がインターネット関係のスキルです。

日進月歩と言われるスピードで変化していくネット社会においては、新しいものが次々に現れてくるためです。

そんな中で英語のような語学スキルは古くなるということはありません。英語も実践で使わなくなれば退化していきませんが、使っている限りは、どんどんスキルが上がっていきます。

むしろ使えば使うほどどんどん伸びていくのが語学スキルの特長です。

ですから身につけた語学スキルは一生もののスキルと言えます。

スキルが上がっていくのが実感できるとやる気も湧いてくるものです。

英語のスキルはビジネスシーンではもちろん、海外旅行の際や国内での外国人とのコミュニケーションの時など、色々な場面で役に立つものです。

国際化が進展しているビジネスの世界においてはいつ必要になるかわかりません。

思い立ったが吉日と言いますが、英語力を伸ばしたいと思ったその時に語学の勉強を始めるべきです。

「またいつか必要になったら」…と持っているといつまで経っても英語は身につけません。

●入門レベルの英語力を活かすことを考える

国際的に言われているのは日本人はどうも英語が苦手だと言うことです。長年に亘って学校で英語を学んでいるはずなのに、一向に話せない日本人学生を見て驚く外国人もいたりします。

会話よりも文法や読解に主力を置いていることも原因と言えますが、それにしても語学は話せてこそ意味があるものです。

これは海外戦略を視野に入れている企業にとっても大きな問題だといえます。

なんとか企業として語学力を上げたいと思っている経営者も多いと思います。ですが、英語をあまり難しく考えすぎるのもどうかと言う感じがします。

通常の会話で使われている英語はそれほど難しい単語は使われていません。中学校で習ったぐらいの英単語がかなりの割合を占めているものです。こうした入門レベルの英語力は多くの日本人が

身につけているものです。

ただ、今まで使わなかったがために顕在意識ではなく、潜在意識へと落ち込んでしまっています。こうした既に使えなくなってしまっている英語力を再び取り戻すようにすれば、再び顕在意識上に現れるようになります。

ですから、入門レベルの英語力を活かすことを主眼にしたら良いといえます。

また、英語にはコツと呼べるものがありますので、そうしたものを上手く掴むこともポイントと言えます。

●経営者が先頭に立って語学力を高める

企業という組織の中で重要なものとしてリーダーの存在が上げられます。経営においてリーダーシップ論に大きなウェイトが置かれているのを見てもそれがわかると思います。

特に中小企業においてはリーダー、つまり社長の存在が社員を含めた会社全体に大きな影響をもたらします。

多くの企業を見てきている税理士や会計士の人たちは「社長を見れば、その企業が伸びるかどうかわかる」と言います。それだけ重要なのが経営者だということです。

つまり、経営者がどう行動するかで会社も変わってくるわけです。もし、自分の会社を国際化に対応できるようにしたいと考えているのであれば、経営者自らが英語を学び語学力を身につけることが重要です。

「語学なんて専門の通訳を雇えば何とでもなる！」と思っている

かもしれませんが、そうではありません。
大事なのは経営者の姿勢なのです。

経営者が自ら先頭に立って、語学を学ぶとなると社員たちにも国際化の必要性や語学力向上の意志が芽生えてくるはずです。経営者が語学を学ぶことで、自らの語学スキルを高めるだけではなく、会社全体に国際化の効果をもたらすことが出来るのです。そうした点も考慮して語学を学び始めることをおすすめします。

●英語力と海外戦略のレベルの関係

日本の経営者の多くが読書を趣味としていたりします。経営者に好評な本の一つに孫子の兵法があります。孫子の兵法というのは昔から多くの愛読者がいる著書と言えます。一文一文が珠玉の内容と言われていますが、特に有名なのが敵と自分を知れば、百回戦っても負けないという話です。相手を知るといふことの重要性がわかりますよね。同じ日本人同士であれば、相手を知ること比較的に容易ですが、そうでないケースもあります。

現代のような国際化時代においては外国人との間でビジネスをおこなったり、あるいは競争していかないといけない場面も多々あります。やはり、相手の事を知るにはコミュニケーションが出来る言葉を持つことが重要です。

そのためにも英語力というのは、欠かせない物と言えるでしょう。それぞれの言語には、その国の文化や考え方が反映されています。

ですから英語圏の相手とビジネスをする場合には英語はコミュニケーションツールという点を越えて、相手を理解するための重要なファクターとなってきます。

もちろん非英語圏の相手と話す場合にも国際的な共通語としての英語の役割は今後さらに増すことはあっても減ることは無いでしょう。そういう意味から、経営者にとって学ぶべき価値がある言語であることは間違いありません。



発行者情報

発行者：藤井哲郎

メールマガジン：文法から学ぶ英語 基礎無料講座

メルマガURL：<https://mail.os7.biz/add/JXSG>

ブログ：TOEIC900 点のサラリーマンが教える文法から学ぶ英語

ブログURL：<http://tfu003.wp.xdomain.jp/>

お問い合わせ：aservice760@gmail.com

